

第一次国府台合戦と千葉氏

小弓公方足利義明は、小弓城入城後、里見氏など房総の武士たちをしたがえて勢力をふるい、甥の古河公方足利晴氏や後北条氏と対立するようになりました。1538年(天文7年)、義明が下総国国府台(市川市)に陣をはると、北条氏綱はこれを攻めて戦いとなりました。戦いは、氏綱が勝利をおさめ、義明、子の義純などが戦死し、小弓公方は滅亡します。里見氏は安房国に逃げました。千葉氏は、この戦いには参加していませんが、家臣の高城氏を後北条氏側に参加させています。

里見氏略系図
 義実―成義―義通―義豊
 実堯―義堯―義弘



北条五代記鴻之台合戦図 芳虎画 船橋西図書館蔵
 第一次国府台合戦の様子を描いたもの。



里見義堯像 『北条五代記』 東京国立博物館蔵

義堯は実堯の子。足利義明に従って国府台に出陣するが、敗戦を知ると戦線を離脱し、安房に退却した。



久留里城跡